

2018 年土木学会全国大会（札幌開催）、研究討論会の報告

NPO 法人道路の安全性向上協議会 理事 大田 孝二

土木学会では、全国 6 地域を順次場所を移動しながら、年に一度全国大会を実施してきている。本年は札幌開催で、8 月 29 日から 3 日間、北海道大学で実施された。例年、この全国大会では、基調講演、特別講演、研究討論会などが企画され、その時々話題に対応してきている。

今年は 5 年計画 SIP（内閣府主催の Strategy Innovation Program、プロジェクトディレクターは本 NPO 理事長 藤野陽三氏）、「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」の 5 年目の最終年度に当たり、「維持管理・更新・マネジメントに関わる新技術の開発と活用拡大を考える」と題して研究討論会が開催された。

会場は約 200 名が入れる広さがあったが、立ち見も出る満員状態で、入室を断られるほどの超満員。用意した資料も不足するほどの大盛況であった。

国土交通省などのバックアップも得て新技術の全国的な反映・履行を目的に、各地域の大学が中心となり、地域実装チームを形成し、新技術の試行・定着を目的として、地方公共団体や民間会社等のインフラ管理者との協力を得ることで、技術の試行や実施の課題や、実施に至ったものについての報告があった。

新技術としては、ドローンやロボットを用いた新たな点検技術、フライアッシュを新たな構造に用いた技術、アセットマネジメントの新たな実例、橋梁モニタリング、診断技術等広範囲に至っている。また、新技術の JICA との連携、海外展開などについての報告もあった。

今年度は、SIP の最終年度に当たるため、来年 3 月までにこれら全国で実施された新技術の展開や、その課題などに関する報告書をまとめるとのことであった。

なお、地域実装チームの活動は SIP の終了後、すなわち来年度からは土木学会が SIP の受け皿になることが決まっており、引き続き新技術の定着化に向けて試行・実施を行うこととなっている。

以上